

マイクロソフト(MSFT)

【セクター】 情報技術

【市場】 NASDAQ

【企業概要】

米国のソフトウェア大手です。パソコンOS（オペレーティングシステム）の「Windows」、ビジネス・ソフトウェアの「Office」、企業向けクラウドの「Azure」、ネット検索の「Bing」、ゲーム機の「Xbox」、ノートPCの「Surface」、ビジネス向けSNS（ソーシャルネットワークサービス）の「LinkedIn」など幅広い事業を展開しています。これら事業が、モア・パーソナル・コンピューティング（19年6月期売上構成比36%）、プロダクティビティ・アンド・ビジネス・プロセス（同33%）、インテリジェント・クラウド（同31%）などに分類されています。

【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
18年6月期	110,360	28,540	3.67	1.68	10.8	19.4	32.0
19年6月期	125,843	36,318	4.68	1.84	13.4	42.4	35.7
20年6月期予想	140,276	41,338	5.40	2.00	15.8	37.0	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

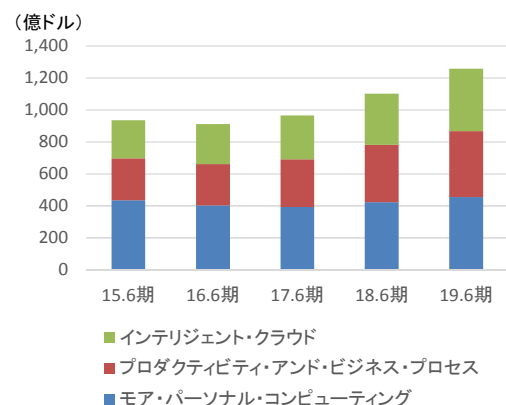
【主要指標】

図表1 クラウドサービスの世界シェア（18年）

企業名	シェア（%）
アマゾンドットコム	31.7
マイクロソフト	16.8
グーグル	8.5
アリババ	4.0
IBM	3.8

（出所）各種報道よりSBI証券が作成

図表2 部門別売上の推移



（出所）会社資料よりSBI証券が作成

【会社の見方】

現在成長を牽引しているのは企業向けのクラウド事業です。18年の世界シェアはアマゾンに次ぐ2位ですが、足もとでシェア拡大の勢いが強く、将来的に世界最大となる可能性もあります（図表1）。同社はメールシステムの「Outlook」やビジネス・ソフトウェアの「Office」などで企業のIT部門とのコンタクトがあることが、クラウドの事業拡大を優位に進められる要因と見られます。一方のアマゾンは企業との関係をゼロから構築する必要があります。10/25（金）には契約額が100億ドル規模とされる米国防総省の「国防クラウド」を受注し、勢いを増している印象です。

【見通し・注目点】

クラウドサービスの成長、ナデラCEOのもと他社との提携にも積極的でオープンな会社になったこと、従来事業での巨大な顧客ベースを生かすことにより、ここ数年10%以上の売上成長が期待されています。19年7-9月期は、企業向けクラウドプラットフォーム「Azure」の前年同期比59%増などが牽引してインテリジェント・クラウド部門は同27%増収を記録しています。

（SBI証券 投資情報部 榮 聡）

（更新日 19/10/30）

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。